

能登半島地震M7.6 県内震度5強 氷見市全域で断水

1月1日(月)、午後4時10分ごろ、石川県志賀町で震度7の地震が発生しました。阿尾地区においても今までにない激しい揺れに恐怖を感じました。その時、東日本大震災の津波の映像が脳裏をよぎりました。日本海側では、地震発生から津波到達まで数分と短いため、高台に早く避難しなければならないと思いました。車を使わず、近くて高い場所ということで「阿尾城跡」に避難しました。そこには、既に50人位の住民が避難していました。榊葉平布神社では、多くの灯籠が倒れていましたが、ストーブで多少の暖はとれたものの、トイレや避難備品がないため、長時間の避難は無理でした。そこで、約1時間後、津波がないことを確認したうえで、指定避難場所の阿尾公民館に移動することになりました。

※他にもいろいろな場所に避難した人もあったと聞いております。けがをした人がいなくてよかったです。



避難所の阿尾公民館には、和室・洋間合わせて100名以上の人が避難していました。不安の中、全員が雑魚寝の状態で一夜を過ごしました。

避難所では、避難困難者の確認、非常食の配布、トイレの水の確保、ストーブの確保など、自治会の人々が中心となって主体的に動いていました。今回ほど自治会や地域の人を頼もしく感じたことはありませんでした。

「頑張ろう能登、頑張ろう富山、頑張ろう氷見」

ちょっといい話

避難する際、高齢で歩行が困難な人の手を引いたり、背中を押したりして避難を助けてくれる人がいました。また、寒いということで自分の防寒着を脱いで着せている人、県外の人でたまたま来ていた人が困っているお年寄りを車に乗せて避難所まで運んでくれる人がいました。人の情を感じる機会となりました。

男性料理教室

12月10日(日)、男性料理教室が行われました。

阿尾・指崎・森寺・北八代の地区から計17名の方に参加していただきました。最初に日頃の食事に野菜が足りているかベジチェックを行い、食生活を見直しました。



クリスマス会



12月21日(木)、阿尾保育園でクリスマス会が行われました。キャンドルサービスの後、ハンドベルや鈴を使った演奏等で楽しみました。最後にサンタクロースからプレゼントをもらいました。

***公民館主事の独り言**

「自分を休ませる練習」 東京大学名誉教授 矢作直樹著より

太陽や月のエネルギーを意識する。
意識すると、自分が「守られている」ことに気づきます。もし太陽と月がなかったと考えるだけで、戸惑いが生まれます。
太陽はお天道様であり、お天道様に包まれて地球上の生きとし生けるものは生活できます。太陽は「光の象徴」です。



月は約29日半周期で満ち欠けをします。
新月、上弦、満月、下弦と4つの区分があり、それぞれの時期で地上の生物に与える「力の質」が変わります。
月の満ち欠けによって、すべての生物は知らない間に様々な影響を受けています。
太陽や月の「お陰様」で元気に暮らしているのです。

○2月の講座案内

講座名	曜日	開設日	講師・責任者	時間	部屋
生け花(池坊)	第1・3水曜日	※2月は休講します。	西山栄津子	10:00~14:00	洋室
かな書道	第1・3月曜日	5日 19日	猶明 光華	13:00~	洋室
手芸	第3火曜日	20日	伏木あい子	13:30~	和室
潮華会(新舞踊)	毎週土曜日	3日 10日 17日 24日	大野 朝子	19:00~	和室
潮月会(新舞踊)	毎週金曜日	2日 9日 16日 23日	大野 朝子	13:00~	和室
囲碁サロン	毎週月・水曜日	5日 7日 12日 14日 19日 21日 26日 28日		13:30~	和室
フラダンス	第1・3月曜日	5日 19日	東軒みさ子	19:00~	和室
常磐会書道教室	第2・4土曜日	10日 24日	名苗くみ子	10:00~	洋室

○阿尾公民館からのお知らせ

-2月の「ふれあいランチ」は、ありません。

○おらっちゃん風土記 (古文書に出てくる阿尾城)

阿尾城が「越中志徴」に出てくる。前田利家が菊池武勝に寝返りを促す書状が載っているのである。
当時の状況は、本能寺の変の後、秀吉が賤ヶ岳の戦いで柴田勝家に勝利し、台頭してきていた。元々は佐々成政は、秀吉や利家より格上であったこともあり、秀吉や利家に敵愾心をもっていた。佐々は利家と対立するようになり、前田方の城(末森城)を攻めたが失敗に終わり、佐々の勢力に陰りが見え始めていた。そんな時、佐々の一武将であった菊池武勝に利家から次のような書状が届いた。

菊池右衛門入道殿 御宿所
其の後は、先劇(末森合戦)の時に連絡をとれなかったことは、それでもいいと思います。今度事件がありましたが見つかったよかったです。御家中にも色々考えているものがあるわけ、それぞれの人について見極めておくべきだと思います。入道殿には、前々より他人を混えず、本心を話し合うことになつており、近日中に談合をしたいと思つておりましたが、佐々方に大切な人質等もつかわされているので今は接触しない方が結局はあなたのためだと思ひ合はしなくておきます。しかし、よくよくお考えになつて決断される時にはなつておられると思ひます。私の方へ付くのが他の人より遅くなるかと条件も悪くなると思ひますが、よくお考えください。細かいことを言わなくても分かると思ひます。恐々謹言



直訳

菊池右衛門入道殿
屋代十六郎殿 御宿所

其後著先朝に付而無言、御床敷候。今度之錯亂如何見付候。飛、御家中にも端々申渡り之儀に候。大形相見筋も御入候。貴老之儀者、前邊より不混、自餘申渡事に候間、此間設合申渡候得とも、被方丈夫に物等をも被遣置候由候間、御向者存、不能其儀候。若御才覚にも可成子細候て、御分別此節候。人々跡に御成候而者如何存存事に候。庶委不申入候。恐々謹言
十一月八日



前田利家氏



菊池氏

- ・天正12年(1584年)11/8...前田利家の密使が菊池武勝に寝返りを誘う書状を渡
- ・天正13年7/4...菊池氏が佐々氏から前田氏に寝返る。
- ・天正13年7/28...前田勢、阿尾城に入
- ・天正13年7/29...神保氏が阿尾城を攻める。

「越中志徴」三巻 p278

身近な阿尾城にも日本の歴史(中央史)に繋がる出来事(寝返りを誘う書状や、阿尾城の戦い)があったんですね。詳しく調べてみてはいかがでしょうか。